

1. 技術体系の特徴

品目	家族労働力	品目・栽培型及び規模		経営・技術の特徴	
施設野菜専門経営Ⅷ	人 4	ミニトマト促成		a 60	1. 接ぎ木セル苗購入・定植 2. 防虫ネット使用 3. 交配はマルハナバチ利用 4. 共同選果施設利用 5. 炭酸ガス局所施用 6. 統合環境制御
		経営耕地面積	水田 60 畑		
経営目標	1 農業総収入	51,524 千円	4 1日当たり農業所得	11,059 円	
	2 農業経営費	41,557 千円	5 1人当たり年間労働時間	1,803 時間	
	3 農業所得	9,967 千円			

2. 資本装備と減価償却費

	種類・規模	数量	型式・構造・能力	所有割合	取得価格	耐用年数	年間償却額
建物・施設	ビニールハウス (ハウス本体工事、二重カーテン(自動)、換気扇、灌水チューブ、電気工事込み)	6	低コスト耐候性ハウス:1000㎡	1	千円 129,554	14	千円 4,627
	重油タンク	3	1.9kL	1	718	7	51
	防油堤	3		1	517	25	21
	農機具倉庫	1	軽量鉄骨 20㎡	1	1,890	24	79
	作業及び収納舎	1	軽量鉄骨 60㎡	1	5,671	24	236
	計					138,350	
農機具	トラクター	1	20PS、140cm幅ロータリー装着	1	1,560	7	111
	管理機	1	6.2PS	1	278	7	20
	動力噴霧機	1	可搬式(5MPa)	1	184	7	13
	トラック	1	軽トラック	1	1,324	4	166
	加温機	6	100,000kcal(40タイプ)	1	11,136	7	795
	循環扇	6	1セット/10a	1	1,364	7	97
	炭酸ガス発生装置	6		1	3,147	7	225
	自動換気装置	6	1000㎡用	1	5,914	7	422
	統合環境制御装置	6	モニタリング装置込み	1	8,829	7	631
	計					33,735	

3. 技術体系(ミニトマト促成)

(10a当たり人、時間)

作業の種類	栽培技術		作業体系				使用資材	技術の重要事項
	技術内容	作業時期	使用機械器具	組み作業人員	実作業時間	延べ作業時間		
(セル苗定植)								セル苗定植の場合は、二次育苗を省略。 草勢が強くなる傾向があるので、注意する。
(本ぼ)								
病害虫防除	土壌消毒 ガス抜き	7月	トラクター	2	3	6	土壌消毒剤 古ビニール	県病害虫防除基準による。
耕うん・整地		8月	トラクター	2	2	4	堆肥 2,000kg	完熟堆肥を施用し深耕する。
施肥	基肥施用	8月	トラクター	2	2	4	石灰質資材 100kg 10a当たり成分 N 30kg P <sub>2</sub> O <sub>5</sub> 25kg K <sub>2</sub> O 30kg	施肥量は土壌分析を参考にする。 Nの分施割合 基肥 40%:追肥 60%
定植準備	うね立て	8月	管理機	2	4	8		うね幅 1.8m
	かん水資材 設置	8月		2	3	6	かん水チューブ	
	マルチ被覆	8月		3	2	6	ポリマルチ	マルチは、低温期になるまで畦の 肩部まで上げておく。
定植		8月		3	6	18		株間55cm(2条) 10a当り 2,020株
支柱立て		9月		3	8	24	支柱 エスター線 誘引ひも	横張りは、8~10段程度

作業の種類	栽培技術		作業体系				使用資材	技術の重要事項
	技術内容	作業時期	使用機械器具	組み作業人員	実作業時間	延べ作業時間		
かん水		9月～6月		1	39	39		着果後から徐々に量を多くする。 草勢に応じて少量多回数のかん水を行う。
管理	誘引	9月～5月		3	45	135	誘引ひも 誘引クリップ	2段までは直立に誘引し、その後は斜めに誘引する。
	追肥	9月～5月		1	34	34		第3花房開花期から1段果房おきに液肥施用。
	腋芽かぎ 摘果 摘葉	9月～5月		3	38	114	ハサミ	腋芽は早めに除去する。 1果房当たり30～50個を目安とする。 摘葉は収穫が終わった果房までおこなう。
ホルモン処理 マルハナバチ 交配	着果促進	9月～5月		1	10	10	ホルモン処理剤 マルハナバチ	マルハナバチ利用による交配。 下段花房(1～3段)はホルモン処理を行う。
病虫害防除	薬剤散布 耕種的防除	9月～6月	動力噴霧機 トラック	2	36	72		県病虫害防除基準による適正使用。 マルハナバチへの影響を考慮する。
統合環境制御		10月～5月	加温機 循環扇 自動換気装置 炭酸ガス発生装置 統合環境制御装置	1	30	30	A重油7,200L 灯油1,500L	厳寒期の保温対策の実施 最低温度 12℃以上確保 昼間温度 25～28℃ 自動換気装置、炭酸ガスは自動制御
収穫		10月～6月		3	240	720	コンテナ 収穫台車	
出荷		10月～6月	トラック	1	50	50		裂果果実の混入に注意する。
後かたづけ	ほ場環境浄化	6月～7月	トラック	2	10	20		収穫終了後にハウスの蒸し込みを行う。
計						1300		

4. 品目の作付体系 (△定植, ◯ハウス被覆, □収穫)

	1		2		3		4		5		6		7		8		9		10		11		12	
	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下
ミントマト促成																								

5. 作業別・月別労働時間(10a当たり時間)

1) ミントマト促成栽培

品目・作業/月・旬	1		2		3		4		5		6		7		8		9		10		11		12		計	
	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下		
定植準備																									28	
定植																									18	
支柱立て																									24	
かん水	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	39	
栽培管理作業	10	10	10	10	10	10	12	12	11	10	10	5													249	
病害虫防除	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3		6												78	
交配																									10	
追肥	1	1	1	2	2	2	2	2	2																34	
温度管理等	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1														30	
収穫・出荷	30	30	26	26	26	32	32	38	38	38	30	30													770	
後かたづけ													10	10											20	
計	46	42	42	39	43	53	53	57	58	56	53	54	48	42	41	30	30	25	13	14	22	37	42	41	42	1300
月計	130		124		159		171		155		103		26		52		53		73		125		129			

6. 総労働時間

	1		2		3		4		5		6		7		8		9		10		11		12		計						
	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下							
総労働時間	276	252	252	234	258	318	318	342	348	336	318	324	288	60	36	132	126	54	90	150	78	84	132	222	252	246	252	246	252	276	7800
うち家族労働	266	242	242	224	248	268	268	262	268	256	268	294	268	60	36	132	126	54	90	150	78	84	132	222	242	236	242	236	242	266	7210
うち雇用労働(常時)																														0	